

白井 浩子

一緒に考えましょう、再生可能  
エネルギー政策への転換 1

— 私たちが身近に取り組めること —



これから、何回かにわたって再生可能エネルギーについて、主に、私たちが身近に取り組める小規模な試みについて、見聞をご紹介しますと思います。どうぞ、ご一緒にお願いいたします。ご意見などもいただけましたら、幸いです。

2011年3月11日の東日本大災害から半年以上たちましたが、まだ、多くの方々が、行方不明です。お亡くなりの方々のご冥福をお祈りし、被害者の皆さんにお見舞い申し上げます。

原発事故に関しては、その危険性が心ある科学者や議員や住民によって、原発政策の開始の時期から再三、警告されてきました。けれども、政府や

事業者は警告を無視して備えをせず、ほとんど警告の内容と同じ事態が起こったのでした。事故はまさに人災であり、政府や東電の責任は大変大きいと言わざるを得ません。

人々の暮らしは日々続くのですから、汚染除去や賠償に関して、国も東電も、あまりにも対応が遅いと思われまます。むしろ、世界での対応の方が速く進んでいるほどです。原発事故の被害の膨大さからみて、日本でも国政として、長期的に見れば脱原発政策を取らざるを得ないと思われまます。原発は、たとえ事故がなくても、高レベル放射性廃棄物を不可避免的に生み出しますから、その処理に対処しなければならぬという大問題があるからです。未来の世代に、大きなリスクと対応を押し付けることから、まぬかれまません。

環境の現状を憂慮し、解決のため行動している私たち「おかやま環境ネットワーク」のメンバーも、この期に、日本のエネルギー政策を、わが身

に引き寄せて検討してみようではありませんか。とりわけ重要な点は、再生可能エネルギー100%のエネルギー政策が可能であることを、事実をもって確信することであると思います。

この連載では、私たちが身近で進められる取り組みについて、検討したいと思います。関連した現地見学会(遠足です!)なども、進められたら、と思います。よろしく、お付き合いのほど、お願い申し上げます。

(次回から、小規模なメタン醗酵の取り組みについて、ご報告します。)



メタン醗酵施設見学  
埼玉県小川町  
ぶくぶく農園

2011年夏に見学してきました。

白井浩子氏

1943年生まれ  
横浜市出身

元・岡山大学教員(生物学)

第14回猿橋賞受賞

現在、余剰進化論を提唱  
(財)おかやま環境

ネットワーク理事